

神戸大学附属中等教育学校創立 10 周年

「探究の力を育む課題研究」(学事出版)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科の林 創(はやし はじめ)准教授と神戸大学附属中等教育学校は、附属中等教育学校の「課題研究」の指導の様子とその成果をまとめた書籍『探究の力を育む課題研究—中等教育における新しい学びの実践—』(学事出版)を刊行いたしました。

神戸大学附属中等教育学校は、神戸大学の附属学校の再編により、2009 年度に中高一貫の学校として創立されました。その当初から「総合的な学習の時間」を「Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト」(KP)と称して、「探究」の学習プロセスを通して、研究手法(リサーチリテラシー)を育成する 6 年一貫の指導を行ってきました。「課題研究」は、その集大成の場であり、生徒は実に 1 年半をかけて、個人でテーマを決め、データを収集して整理・分析・検証し、論文(18,000 字以上)を執筆して、発表するという大掛かりなものです。

新学習指導要領では、高等学校での「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」となるように、「探究」は新しい学びを代表するキーワードです。附属中等教育学校は 2015 年にスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定校となりましたが、SGH では課題研究を中心的プログラムと位置づけています。このため、新学習指導要領や SGH の指定を受けたことは、本校の探究の学習にとって「追い風」となりました。その指導の成果は、「全国学芸サイエンスコンクール」(旺文社主催/内閣府・文部科学省・環境省後援)で「内閣総理大臣賞」を受賞するなど、さまざまな形で現れています。また、課題研究の取組が適合する大学入試も増え、課題研究で力をつけた生徒が難関大学(東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学など)やアメリカの名門大学(プリンストン大学など)に続々と合格するようになりました。全国的にも中等教育において探究の指導が求められるようになり、神戸大学附属中等教育学校の課題研究は、先進的事例として全国の高校の注目を浴びるようになっています。

そこで、創立 10 周年にあわせて、神戸大学附属中等教育学校の課題研究の指導の詳細と生徒の成長の様子をまとめ、全国の探究指導および課題研究の取組の参考になることを目指して、書籍『探究の力を育む課題研究—中等教育における新しい学びの実践—』(学事出版)を刊行いたしました次第です。

目次等の詳細は裏面をご参照ください。

